

年末手当、低額回答を許さない！！

JR東労組青年部怒りの抗議声明！！

1、低額回答に怒りをもって抗議する！

新型コロナウイルス感染拡大の不安を抱え、職場では黒字化に向けてコストカットや増収に向けた取り組みを行い、令和4年第2四半期決算(単体)においては黒字を達成した。これは、紛れもなく職場で働く者の努力によるものに他ならない！しかし、会社はコロナ対応などに対する「感謝」の言葉もなく、交渉においてのJR東労組の指摘をもってようやく「様々な努力があったからこそその決算である」と述べた。

有利子負債に関しては、経営側の判断を私たち働く者に押し付け、さらには役員報酬の自主返納もいつの間にかやめている。このような姿勢を私たちは許さない！

2、会社は青年部員・社員の声を掴むべき！

本部には6000件にも及ぶ声が寄せられ、若手世代からの「黒字化を達成出来たのは働く社員のおかげだ」「物価高で生活が圧迫されて不安がある」「このままこの会社で働いていて良いのか」などの声を訴えたが、会社は「職場の声や組合の主張は受け止める」としていた。

しかし、「通期の黒字達成に向けてまだまだ努力が必要」「物価動向については新賃金の中で判断する考えに変わりはないが、現状を踏まえて夏期手当議論時のスタンスに変わりはない」とした。我々が訴えた、生活実感・労働実感の声を受け止めているのならば、報いるような回答をするべきである！

3、離職への危機感をもっと持つべき！

離職に対し、危機感はあるとしながらも「世間一般的には低い水準である」とし、2021年度に若年退職が597名も出ている現実に対して、「回答を聞いて、離職がもっと増えると感じた」と訴えるも、会社は「能力を活かす場がないことが理由」「一人ひとりが活躍出来る会社をつくっていく」と述べた。しかし、退職した方の本音は、「働きがい求めての退職」ではなく、「基本給が20万円に満たない」「環境が良くても低賃金が改善される見込みがないので転職した」「手取りが少ない上に福利厚生にも魅力がなくなっている」など、賃金や労働環境、会社の経営姿勢に対しての不満・不安であり、会社は本音を掴み切れていない！

4、職場の声をかき消す者たちとたたかっていく！

現在の会社姿勢を下支えしている社友会の存在と、労働者の立場から大きくかけ離れた要求を繰り返す一部労働組合の存在を許さない！賃金や労働条件の向上のため会社と交渉できる権利を持っているのは労働組合のみであり、労働組合に該当しない社友会はその権利がない。しかし、私たちの切実な声は、労働組合としての権利を有しない社友会という存在によってかき消されている。

こうした私たちの労働運動を阻害するかのような者たちとたたかい、会社姿勢や交渉の事実、危機感について 未加入者や他労組組合員へ訴えJR東労組に結集しなければならない！

5、この怒りをバネにJR東労組組織の拡大に向けて全力を傾注する！

JR東労組青年部は、組合員・社員の生活実感や労働実感に耳を傾けずに示された低額回答を断固許さず、最後までたたかい抜く！そして、この怒りをバネに、多くの青年部員・社員と対話し、傲慢な経営姿勢に立ち向かう仲間を増やしていく決意である！

皆さん、本当にこのままいってしまえば、私たちを考えない経営姿勢に拍車がかかり、私たちの賃金・労働環境は悪化していくばかりか、離職をする仲間もますます増えていくことになる。

今こそ、多くの仲間の結集のもと、満額回答に向けてJR東労組組織の強化・拡大を推し進めていこう！

2022年11月14日
東日本旅客鉄道労働組合青年部
中央常任委員会